

1 チーム名 (研究対象領域・教科) 小学部 こくご

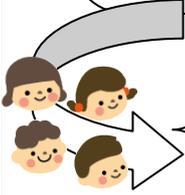
2 メンバー 小学部教員 5名

3 チームのテーマ 「生活に生きる文字の学習」  
…文字と音声を結び付けること (読みの理解) によって、発音やコミュニケーション能力の向上につながるようにする。

4 対象児童に願う主体的な姿

【 対象児 A、B、C、D の共通する実態 】

- ・発音が不明瞭である。音声の模倣が難しく、模倣を促すと自信がなさそうに曖昧な発音をすることが多い。(ABCD 児)
- ・名前や絵が付いている単語への関心はある。口頭での示された単語に合った絵は取れるが、物の名称を言ったり一字ずつ文字を読むことは難しい。(ABCD 児)
- ・身近な物の名称や何人かの友達の名前を言おうとする。人への関心が高く、かかわりたい気持ちはあるが、伝えたいことを正しく言えないと、曖昧な音声で済ませようとする人が多い。(ABC 児)



- ・自分の名前が分かり、一文字ずつ読む姿
- ・教室にある文字を指さしたり、知っている文字を見つけたりしながら読む姿
- ・教室にある文字を見て、名称や場所を自分から話す姿

5 研究仮説

仮説① 子どもたちの生活につながっている**意味のある言葉**を題材にすることで、学習意欲を喚起できるのではないかと (…実践内容★1, 2)

仮説② **文字を介して、自分と他者(教師)が通じ合う経験**を積み重ねることで、文字への関心を高めることができるのではないかと (…実践内容★3)

6 指導の経過

【 実践内容 】

★1 文字チップによる単語の構成をする。手本と同じ文字チップを選び、手本と重ね合わせ、教師と一文字ずつ発音する (ACD 児)

★2 本人が好むキャラクターの名前を指さしながら読む (D 児)

A 児



C 児

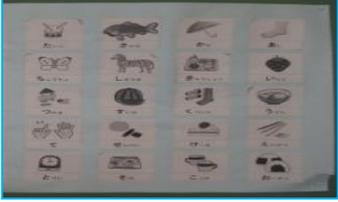


D 児



★3 本人が知っているものを使用した**平仮名 50音単語表**を作成し教室に掲示する  
これと同じ絵・文字のカードを課題学習に使用し、読みや学習を進めるようにする。(B 児)

B 児



## 【 実践の成果 】

### ▲ 実践内容★1、2 について

**A 児**  ・身近な文字を繰り返し学習していくことで、1枚のチップを見て、「め」「て」「い」など1音で答えることができるようになってきた。児童が興味のある題材を用いたことで、学習意欲が持続し、飽きずに繰り返し取り組むことができた。

**C 児**  ・自分の名前や友達の名前の見本を見て、語頭から構成していくようになった。構成した文字を一緒に一文字ずつ読むようにしたところ、教師の口元をよく見て、発音をそれらしく真似て言えることが増えてきた。生活場面で給食や予定カードなどを見て、「あぐー」「ご・は・ん」に、「バ・シ」が「バ・ス」と模倣して言えるようになった。自分から「これでいい？」と尋ねたり、「先生、待ってて。」のように意思表示の言葉が増えてきた。

**D 児**  ・本人の興味のあるキャラクターの絵カードを用いて学習を行ったことと、「がんばりシート」を用いて正解数だけウルトラマンシールを貼り、授業の終わりに称賛することを重ねたことで、意欲的に学習に向かう様子がみられるようになった。  
・ひらがなブロックを並べる際に、教師の方を見て確認し、発音しながら並べる様子がみられるようになってきた。

### ▲ 実践内容★3 について

**B 児**  ・平仮名单語表に関心を示し、自分から絵を指差して物の名前を言ったり、教師と表を媒介に話すことで、口の動かし方や発音を確認しながら話しをする様子が見られるようになった。  
・分からない絵に「これは？」と尋ねるようになり、教師が答えると自分から模倣する様子が見られるようになる。文字に目を向けるようになり、自分から一文字ずつ指差しをしながら単語を言う事が増えた。  
・読みの習得の定着は少ないが、繰り返し取り組んできた平仮名文字に関しては一文字での読みができる音（あ、つ、ん、う等）も見られるようになってきた。（C児）

## 7 成果と課題

仮説①「子どもたちの生活につながっている意味のある言葉を題材にすることで、学習意欲を喚起できるのではないか」に関して（実践内容★1、2）

…自分や友達の名前、身近な単語、朝の会で使うものなど、子どもにとって必要感のある文字を題材にすることで、無理なく文字の学習を実施することができた。日常的に見たり、聞いたり、話したりする言葉や文字なので、意欲を持って繰り返し学ぶことができた。子どもにとって必要性があり、意味を理解している言葉を題材としたことで、文字が分かる喜びを感じ、自分から相手に伝えたいという姿が見られるようになってきている。

仮説②「文字を介して、自分と他者(教師)が通じ合う経験を積み重ねることで、文字への関心を高めることができるのではないか」に関して（実践内容★3）

…50音表や、文字チップを介して教師とやりとりをして、通じ合った経験が自信につながったり、文字が分かったことを子ども自身が実感したりすることにより、さらに文字への関心や文字を通して相手に伝えようとする気持ちを高めることができた。

課題としては、①文字への関心を生かし、文字や言葉を学習する上で大切になる子どもの語彙をどう増やしていくか、②子どもの興味関心から文字の理解をどう広げていくか、という2点が挙げられた。文字の学習を通じた子どもの伝える力の向上について今回の研修を元に、今後さらに検討していきたい。

